PART2　識別の応用（なむ）

★注意すべき「なむ」

（例）受け**なむ**

●「未然形」と「連用形」が同じ形の場合→**文脈判断**

まず「　　　　」と訳してみる。

○→他者願望の終助詞

×→完了の助動詞＋推量の助動詞

※ただし、「　　　　」にあれば「完了の助動詞＋推量の助動詞」である。

（例）親王（みこ）、酔ひて（寝所に）入りなむとす。月も隠れ**なむ**とすれば、…

●「しなむ」の場合

「し」が「　　」と訳せる＝サ変「す」連用形＋「　　」＋「　　」

「し」が「　　」の意味＝ナ変動詞未然形＋推量の助動詞

（例）連歌し**なむ**。

●「連用形＋なむ」が「係助詞」である場合

（例）いと恥ずかしく**なむ**。

連用形

〜
〜
〜　＋ **なむ** ＝ **係助詞**

●「てなむ」＝**接続助詞**「て」＋**係助詞**「なむ」

（例）一筋に通ひて**なむ**ありける。

第24講　PART2　確認問題

① 傍線部の文法的説明として最も適当なものを、現代語訳を参考にして、次の中から選べ。

「おのづから聞こえなむと思ひて、…」
（現代語訳「自然にうわさになってしまうにちがいないと思って、…」）

ア　ナ変動詞の活用語尾＋推量の助動詞
イ　強意の助動詞＋推量の助動詞
ウ　係助詞
エ　終助詞

② 「拾はば消えなむと見ゆる玉笹の上の霰などの、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞の活用語尾＋推量の助動詞
イ　助動詞＋助動詞
ウ　係助詞
エ　終助詞

③「さりとも今一度はおはしなむ」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞の一部＋完了の助動詞＋推量の助動詞
イ　ナ行変格活用動詞未然形＋推量の助動詞
ウ　サ行変格活用動詞連用形の一部＋推量の助動詞
エ　ナ行変格活用動詞未然形＋完了の助動詞＋推量の助動詞

④「心にいらで、あしくなむよみたまひける。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　副助詞
イ　係助詞
ウ　完了の助動詞＋推量の助動詞
エ　断定の助動詞＋推量の助動詞

⑤「心やましき物越しにてなむ逢ひてはべる。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　終助詞
イ　副助詞
ウ　係助詞
エ　完了の助動詞＋推量の助動詞

第24講 PART2 確認問題 解答

〔解説〕

① 上の「聞こえ」は「聞こゆ」の未然形もしくは連用形なので、「なむ」は他者願望の終助詞か、完了・強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」である。現代語訳に「～にちがいないと思って」とあるので、強意の助動詞＋推量の助動詞。よって、イが正解。

② 上の「消え」は「消ゆ」の未然形もしくは連用形なので、助動詞＋助動詞か終助詞かで迷うが、訳すと「拾えば消えてしまうだろうと思われる」となるので、助動詞＋助動詞。よって、イが正解。

③ 「おはしなむ」を分解すると、サ行変格活用動詞「おはす」の連用形＋完了・強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」。よって、アが正解。

④ 形容詞「あし」の連用形「あしく」に係助詞「なむ」が付き、文末が係り結びで「けり」の連体形「ける」となっている。よって、イが正解。

⑤ 係助詞「なむ」で、係り結びにより文末は「はべり」の連体形「はべる」となっている。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② イ　③ ア　④ イ　⑤ ウ